

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果と今後の指導について

羽島市立羽島中学校

数学

1 数学A 主として「知識」に関する問題の結果

領域毎の結果	「数と式」「関数」「図形」「資料の活用」の領域において全国の平均正答率を下回った。	
設問毎の結果	全国の平均正答率を上回った設問例	・ 比例式を解くこと（数と式）〔数学的な技能 1年〕 ・ 対称な図形について理解すること（図形）〔数量や図形についての知識・技能 小学校6年〕
	全国の平均正答率を下回った設問例	・ 正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解すること（数と式）〔数量や図形などについての知識・理解 1年〕 ・ 数量の大小関係を不等式に表すこと（数と式）〔数学的な技能 1年〕

2 数学B 主として「活用」に関する問題の結果

領域毎の結果	「数の式」「関数」「図形」「資料の活用」の領域において全国の平均正答率を下回った。	
設問毎の結果	全国の平均正答率を上回った設問例	・ 与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えること（確率）〔数学的な技能 2年〕 ・ 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること（関数）〔数学的な見方考え方 2年〕
	全国の平均正答率を下回った設問例	・ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること（関数）〔数学的な見方考え方 2年〕 ・ 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明すること（図形）〔数学的な見方考え方 2年〕

3 今後の指導について

- ・ 領域における偏りは見られなかったが、全体として正答率が全国平均を下回る問題が多くあるため、指導計画全体を見直し改善する。繰り返し問題に取り組ませ、基礎的な知識や技能の定着を図る。
- ・ 言語活動を通して、指導事項を身に付けることができるよう、単元指導計画を見直し、改善する。例えば、数学的に考察する場面において、その過程を振り返る上で問題解決の方法や手順を伝え合う言語活動を通して、論理的に推論する力を付ける。
- ・ 目的に応じて知識を活用する力を身に付けるために、事柄が成り立つ理由を説明する場面では、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上でその根拠を示しながら理由を説明する学習活動を設定する。
- ・ どの領域においても無解答率が高い。自分で解答をつくったり考えを記述したりする学習活動の場において、生徒の実態に応じた指導援助の工夫をする。